

介護スタッフのための 緩和ケアマニュアル活用支援事業

千葉県健康福祉部
健康づくり支援課がん対策班

1

平成30年度千葉県がん対策審議会緩和ケア推進部会における主なご意見

○「介護スタッフのための緩和ケアマニュアル」の効果的な普及について

1. 地域ごと、部署ごとに広めていくことも重要
2. 市町村は在宅医療・介護事業を行っているため、緩和ケア、施設の看取りの部分でマニュアルを使ってもらえないか市町村へのアプローチすることも一つ
3. 研修会を開催し、職能団体（全国老人保健施設協会、ちば高齢協、グループホーム等）に働きかけを行ってはどうか
4. 介護支援専門員は介護サービス計画（ケアプラン）の立案において重要な役割を果たしているため、介護支援専門員向けの研修会を開催
5. 県医師会の地域医療支援センターで行うヘルパーや看護学生等に行う授業の中で、マニュアルをテキストとして用い、普及啓発をしてはどうか

2

事業の概要

第3期千葉県がん対策推進計画（一部抜粋）

○がん患者が住み慣れた施設において、介護スタッフから心地よい介護を受け、最後まで穏やかな療養生活を送ることを支援するため、平成29年に「介護スタッフのための緩和ケアマニュアル」を作成しました。

○県は、高齢者・介護施設等のがん患者の受け入れ先を支援するため、「介護スタッフのための緩和ケアマニュアル」を活用した在宅緩和ケアの普及に取り組みます。

1. 職能団体向け研修会の開催【新規】
2. 高齢者施設等への講師派遣
3. 調整会議の開催
4. 普及啓発

3

1. 職能団体向け研修会の開催結果

対象者	高齢者施設等管理者	理学療法士	介護支援専門員
開催日時	令和元年11月14日（木） 16:00～17:45	令和元年12月23日（月） 14:30～16:30	令和2年1月9日（木） 14:00～16:00
会場	千葉県庁本庁舎5階大会議室	千葉県庁本庁舎5階大会議室	千葉県庁本庁舎5階大会議室
講師	・ さくさべ坂通り診療所 院長 大岩 孝司 氏 ・ ラミーナ訪問看護ステーション 管理者 木村由美子 氏	・ さくさべ坂通り診療所 院長 大岩 孝司 氏 ・ 千葉県理学療法士会 会長 田中 康之 氏	・ さくさべ坂通り診療所 院長 大岩 孝司 氏 ・ 千葉県訪問看護ステーション協会 会長 権平くみ子 氏
参加者数	40名	50名	30名
周知方法	・ ホームページに掲載 ・ 特別養護老人ホーム、有料老人ホーム、サービス付き高齢者向け住宅にメール又は郵送（1,263）	・ ホームページに掲載 ・ がん診療連携拠点病院等、千葉県がん診療連携協力病院、地域リハビリテーション広域支援センター、ちば地域リハ・パートナー指定機関、千葉県理学療法士会会員等にメール（221）	・ ホームページに掲載 ・ 介護支援専門員対象の研修会の会場に5日間チラシを配置（参加予定1,860名） ・ 介護予防事業従事者研修会で配布（63） ・ 千葉県介護支援専門協議会ホームページに掲載

4

研修会アンケート結果から見てきたもの

○いずれの立場でも共通する不安や困りごととして、がん患者との「関わり方」が挙げられた。
○その他、緩和ケアの知識や看取り経験の不足、医療—高齢者施設の連携、ACP（アドバンス・ケア・プランニング）の普及等の課題があった。

不安や困りごと

高齢者施設等 管理者 「不安や困りごとがある」と回答した人の割合 58%	<ul style="list-style-type: none"> 精神的なフォローのための信頼関係の構築 痛みの訴え、急変時の対応、介護職が怖がる がんの告知後、本人が十分な理解、受け入れが出来ていないことがある 病院や地域の医師の緩和ケアに対する理解が得られないと対応しづらい（医療との連携） がん＋認知症の利用者へのケア。ほとんどが知人、家族がいない方ばかりなので、本人の死生観に合っているか悩む
理学療法士 「不安や困りごとがある」と回答した人の割合 90%	<ul style="list-style-type: none"> 関わり方、精神的に落ち込んでいる人への対応の仕方 看取りについての知識がない、看取りの経験がない 「もう何もやりたくない」と動くのも話すのもマッサージ等も拒否されると、リハ指示が出ていて何かやらなくてはいけないので困る 終末期リハを行う上で、何を目標にしてよいかわからない。改善しないため、どうモチベーションを上げていくか
介護支援 専門員 「不安や困りごとがある」と回答した人の割合 67%	<ul style="list-style-type: none"> どのように関わればよいか サービス導入のタイミングや本人への切り出し方 医療知識の不足が不安 本人・家族の想いが異なる 寄り添いたい・自律を支援したいが、時間がかかり、勤務時間内に終わらない

5

研修会やマニュアルに関するご意見

○印象に残ったこと、業務に活かしたいこと

高齢者施設 等管理者 (高)	<ul style="list-style-type: none"> がん＝痛み・苦しいというイメージが強かったが、ケアによって緩和できることに驚いた 心地よいと感じるケアを受けた人は心穏やかで落ち着いていることがわかった がんの症状は急激に進行することを改めて知り、スタッフ側の準備が必要だと思った
理学療法士 (PT)	<ul style="list-style-type: none"> 呼吸苦や疼痛を訴える患者も多いが、しっかりコミュニケーションを取り、本人の不安、恐怖、不満などのストレスを軽減して症状緩和に努めたい ADLを維持、向上しなければいけないとどこかで考えていたが、患者さんや家族にとっての最高のQOLを達成することに焦点を当てる
介護支援 専門員 (CM)	<ul style="list-style-type: none"> 介護は“自律した生活の再構築”という言葉にハッとしました。がん患者だけでなく、すべての対象者に必要な考えだと感じた 価値観を押し付けず、寄り添う。本人がなかなか決められない場合、医師、看護師等と連携をとり、ケアマネジャー1人の見解にならないようにしたい

○改善が必要なこと

研修会	<ul style="list-style-type: none"> 研修会数を多くして、県内で分散して行って欲しい（高） 介護施設で対応が上手くいくかどうかのカギは、事業所の看護師や協力医療機関等の医療従事者の質と実働にかかっているため、<u>医師、看護師を対象とした研修をして欲しい</u>（高） 専門的スキル（リラクゼーション、精神ケア、動作分析介助方法等）、嚥下、QOL・評価の講演や事例検討があるとよい（PT）
マニュアル	<ul style="list-style-type: none"> 動作指導のページは、運動の動作と少しずれている（PT） 家族への支援内容を具体的にしたい（PT）
普及啓発	<ul style="list-style-type: none"> 事業所の研修に利用したいので、マニュアルを県ホームページに掲載して欲しい（CM）

6

2. 高齢者施設等への講師派遣

○目的

施設における緩和ケアの普及及び支援技術の向上を図るため、緩和ケアに取り組みたいと考えている高齢者施設等に専門講師を派遣する。

○選定方法

高齢者施設等管理者のための緩和ケア研修会受講者に事業の周知を行い、希望のあった施設に講師を派遣する。

○派遣回数：2回

講師派遣の希望施設がなく、当課から施設に個別に再度案内を行った。
 その中で、「介護スタッフを5人、10人を30分集めることも難しい」との意見をいただいた。

○派遣先及び派遣日程等

種別	サービス付き高齢者向け住宅	住宅型有料老人ホーム
日時	令和2年2月13日（木）19：00～21：00	令和2年2月18日（火）15：30～17：30
対象	施設管理者、介護職員、看護師、介護支援専門員、厨房職員等	
参加者数	13名	15名
講師	<ul style="list-style-type: none"> ・ラミーナ訪問看護ステーション 管理者 木村由美子 氏 ・千葉県理学療法士会 会長 田中 康之 氏 	

7

高齢者施設等への講師派遣結果

○講師派遣事業について

	よかった点	課題
施設管理者	<ul style="list-style-type: none"> ・各種研修会を受講した職員は他職員に発表するが、研修の要点を周知することが難しい。今回全員が同じ研修を受講することで、職員が同時に理解できた ・研修会と講師派遣を両方受講したが、講師派遣の方が演習があるのでよかった 	<ul style="list-style-type: none"> ・施設で研修を行う場合、広い部屋が食堂しかないため、開催は夕食後でないと難しい（近隣の会場なら日中の参加可能） ・夕方開催の場合、<u>子育て中の職員は参加できない</u> ・研修時間が短い。せっかく施設に来てくれるなら、2.5～3時間の研修をして欲しい
講師・事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・施設の用具に合わせたケアの工夫が助言できた ・受講中でも、ナースコールの対応等の業務を行いながら参加できた 	<ul style="list-style-type: none"> ・参加希望施設が少ない ・研修会の参加が受講者の意志によらない場合もある

○受講者アンケート結果の意見

（受講前）困ること、心配なこと	（受講後）業務に活かしたいこと
<ul style="list-style-type: none"> ・心のケア、コミュニケーション技術 ・痛みの緩和 ・高齢者とがん患者さんの経過の違いがわからない ・身体機能低下に対する支援方法 ・食材や調理法、食事の量など 	<ul style="list-style-type: none"> ・寄り添い、声を聴く ・よく観察し、利用者の動きに合わせる ・体位変換、ストレッチ、ブローイング ・食材や食事の量、水分摂取

8

3. 調整会議の開催

(目的)

千葉県がん対策審議会緩和ケア推進部会からの本事業に係る意見を踏まえ、以下の内容について検討するため

(内容)

1. マニュアルの普及に関すること
2. 講師派遣先の選定に関すること
3. 研修会講師の選定に関すること
4. 研修会内容に関すること
5. 補助教材の検討に関すること
6. その他必要な事項

(構成員)

マニュアルに精通した者、在宅緩和ケアの有識者及びリハビリテーション専門職等

(事務局)

会議の事務局を千葉県健康福祉部健康づくり支援課内に置く

(その他)

会議は、地方自治法第138条の4第3項の規定に基づき、法律又は条例により設置された附属機関の性質を有しない。

9

調整会議の開催状況

	平成30年度	令和元年度	令和2年度(案)
開催数	2回	1回	2回
構成員	5名 (医師、看護師、訪問看護師 2名、理学療法士)	3名 (訪問看護師2名、 理学療法士)	5名 (医師、訪問看護師2名、 理学療法士、介護福祉士)

令和元年度開催結果

- (1) 介護スタッフのための緩和ケアマニュアル活用支援事業のスケジュール(案)について
 - ・平成30年度千葉県がん対策審議会緩和ケア推進部会の意見を踏まえたスケジュール案について報告。
- (2) 研修会について
 - ・開催日時、会場、講師について共有した。
- (3) 高齢者施設への講師派遣について
 - ・講師派遣は、訪問看護師及び理学療法士の2名で研修会を実施することとし、派遣日程や派遣先選定、研修内容等についての意見をいただいた。
- (4) その他
 - ・構成員の辞任に伴う、会議の方向性について議論。医師、介護職員を新たに加え、調整会議を継続していくこととなった。

4. 普及啓発

令和元年度実績

- ・ 介護支援専門員研修会の会場にマニュアルを配置
- ・ 高齢者施設等を対象とした「がん患者の緩和ケア提供体制に関する調査」時に、緩和ケアマニュアルの紹介チラシを同封
- ・ 千葉県介護支援専門員協議会発行のケアマネ通信でマニュアルを紹介
- ・ 千葉県ホームページでマニュアルを掲載（継続）

11

今後の方向性

令和2年度事業（案）

1. 職能団体向け研修会の開催

- ・ 介護スタッフの他、在宅医療に携わる方（医師、看護師）を対象とする

→令和元年度の対象職種と同一とするか対象を変えるか、職種についてご意見を伺いたい

- ・ 地域ごとの開催を検討

2. 高齢者施設等への講師派遣

- ・ 研修会参加者に事業を案内し、希望のあった施設に講師を派遣する
- ・ 緩和ケアに取り組む高齢者施設のモデル化を目指す

→講師派遣の必要性、方法についてご意見を伺いたい

3. 調整会議

- ・ 研修会や講師派遣の研修内容について、対象に合ったより効果的な方法を検討する

4. 普及啓発

- ・ 引き続き、ホームページの掲載やチラシの配布を行うとともに、関係団体が集まる機会を通じて啓発を行う

介護スタッフのための緩和ケアマニュアルの認知度向上に向けた取組について、ご意見を伺いたい

12